

『理趣広経』「真言分」における *Caturbhaginītantra* の チベット語訳校訂テキストおよび和訳

徳重 弘志

はじめに

『理趣広経』(*Śrīparamādyā*, 以下 ŚP) とは、玄奘訳『般若理趣分』(『大般若経』第 578 卷) から発展した經典群に属しており、インド中期密教を代表する經典の一つである。本經典は、サンスクリット原典は散逸しているが、チベット語訳と漢訳(大正 no. 244) が現存している。チベット語訳に関しては、翻訳者が異なる以下の一組の經典が存在する。

Śraddhākaravarman, Rin chen bzang po 訳, *dPal mchog dang po zhes bya ba theg pa chen po 'i rtog pa 'i rgyal po*, D no. 487, P no. 119, 11 世紀前半頃¹。

Mantrakāśa, lHa btsan po Shi ba 'od 訳, *dPal mchog dang po 'i sngags kyi rtog pa 'i dum bu zhes bya ba*, D no. 488, P no. 120, 11 世紀前半頃²。

このうち、前者の Rin chen bzang po 訳は「般若分(大樂金剛不空三昧耶)」(以下 ŚP I) と、後者の Shi ba 'od 訳は「真言分」と呼称されている。また、「真言分」に関しては、「大樂金剛秘密」(以下 ŚP II) と「吉祥最勝本初」(以下 ŚP III) という 2 編から構成されている。このように ŚP は、段階的に成立した 3 編が後代に一つに統合された經典である³。また、同經典に対しては、Ānandagarbha (紀元後 9–10 世紀) が著した *Śrīparamādyāṭīkā* (D no. 2512; P no. 3335, 以下 ŚPT) という逐語的な注釈書が現存している。

さて、ŚP では、「四姉妹」(*sring mo bzhi*) に関するマンドラや儀礼が、それらの 3 編に各々記されている⁴。本稿で扱うのは、ŚP III における *Sring mo bzhi 'i rgyud* (**Caturbhaginītantra*) という一節である⁵。この一節の名称は、Karnakagomin (紀元後 9–10 世紀) が *Pramāṇavārttikaṭīkā* の中で言及する *Caturbhaginītantra* (四姉妹のタントラ)⁶ という文献名と一致⁷ しており、内容的にも対応している⁸。この Karnakagomin が言及する經典は、これまで現存が確認されていなかったため、ŚP III における当該の一節は仏教論理学の研究にも資するものだと判断することができる。そこで本稿では、ŚP III における *Sring mo bzhi 'i rgyud* (**Caturbhaginītantra*) と、ŚPT における当該箇所に対する注釈とを対象として、複数の写本・版本に基づく校訂テキストおよび和訳を提示する。

1 『理趣広経』および注釈書のチベット語訳校訂テキスト

凡例

- (1) 本稿では、ŚP III における *Sring mo bzhi'i rgyud* (**Caturbhagināntra*) に関しては、チョネ版 (C)、デルゲ版 (D)、ラサ版 (H)、ジャンサタム／リタン版 (J)、ロンドン／シェルカル写本 (L)、ナルタン版 (N)、北京版 (P)、プダク写本 (Ph)、トクパレス写本 (S)、東京写本 (T)、ウルガ版 (U)、永楽版 (Y) を校合した上で、ツェルパ系統 (C, D, J, P, U, Y) に基づく校訂テキストを作成した⁹。
他方、ŚPT における当該箇所注釈に関しては、デルゲ版 (D) を底本とし、チョネ版 (C)、金写本 (G)、ナルタン版 (N)、北京版 (P) によって校合した校訂テキストを作成した¹⁰。
その上で、それらの校訂テキストに基づいて和訳を行った。
- (2) 校訂テキストでは、異なる版本・写本におけるシェー (shad) の異同については報告しない。また、略字 (bsdus yig) については、その原型を報告することなく、正規形で示した。
- (3) 校訂テキストの異読に関する後注においては、各注記の始めに採用する読みを示し、記号 (]) を挟んでその読みを支持する諸版の略号を示した。また、採用する読みと異読、あるいは複数の異読同士は、セミコロン (;) で区切った上で、その読みを支持する諸版の略号を示した。
- (4) 和訳においては、亀甲括弧 [] 内に筆者が補った語句を示した。また、丸括弧 () 内に訳語の原語や言い換えなどを示した。なお、ŚPT の和訳の際には、ŚP からの引用文をすべて鉤括弧 「 」 で強調した。

1-1 (『理趣広経』における **Caturbhagināntra*)

de nas ston pa¹¹ rdo rje 'dzin || sems can¹² kun rje¹³ ston mdzad pa ||
'jig rten gsum phyung don grub tu¹⁴ || slar yang sring¹⁵ mo nmams 'byin mdzad || [1]

kun tu¹⁶ chags dang zhe sdang rmongs || brtan par byed pa'i rgyu yin no ||
dga' dang phrag¹⁷ dog bud med ni || rab tu¹⁸ grags pa'i dngos grub ster¹⁹ || [2]

gang zhig 'jig rten kun tu²⁰ bshad || tshogs²¹ kun gyis²² mchod lha mo nmams ||
zhi dang 'jigs ma de bzhin gser ||²³ grub pa dang ni²⁴ zhi bar bshad || [3]

phyi rol sems can phan phyr dang || rtogs don khong du chud bya'i²⁵ phyr ||
de nmams kyi²⁶ ni snying po dang || dkyil 'khor²⁷ de bzhin dam tshig bshad || [4]

hrīḥ hūṃ shrīḥ bhyo²⁸ |

dkyil²⁹ 'khor bzang po sgo bzhi pa³⁰ || srad bu gsum gyis³¹ dkyil 'khor bya ||
mtshams³² kyi thig ni³³ ka ba che³⁴ || bzhi po dag gi³⁵ rim³⁶ pa bzhin || [5]

de yi³⁷ dbus su dkyil 'khor ni || bzhi po dag ni³⁸ de bzhin bya ||
rang gi snying po bzhi po ni³⁹ || rang gi sgor ni phyogs par gzhaq⁴⁰ | [6]

skal⁴¹ bzang lag⁴² na rang gi⁴³ mtshon || sring⁴⁴ mo phub⁴⁵ can zhi ba mo⁴⁶ ||
phag mo⁴⁷ lag na gter nyid de || grub pa⁴⁸ mo ni bsnyems⁴⁹ dang bcas || [7]

de nas dang po'i⁵⁰ dkyil 'khor du || kun nas⁵¹ de bzhin zhugs⁵² nas ni ||
sring⁵³ mo rnams kyi⁵⁴ rang gi rgyas || go rim⁵⁵ dag ni ji⁵⁶ bzhin du || [8]

zhugs nas de bzhin cho⁵⁷ ga bzhin⁵⁸ || spos⁵⁹ la sogs pas mchod par⁶⁰ bya ||
de nyid gsang ba rab bsgrub⁶¹ pas || kun nas dgug⁶² pa dag tu bya || [9]

om sum⁶³ bha gara⁶⁴ tiṣṭha⁶⁵ mā yā⁶⁶ hi bhūr⁶⁷ | rakṣa sa mā⁶⁸ tiṣṭha⁶⁹ mā yā⁷⁰ hi bhūr bhu⁷¹ baḥ⁷²
| ba rā hā sa mī ryā ta⁷³ mā yā hi⁷⁴ swaḥ⁷⁵ | siddhi ke⁷⁶ siddhi sa⁷⁷ mā yā⁷⁸ hi i mām ke mu drā
bhiḥ⁷⁹ | hrīḥ⁸⁰ hūṃ shrīḥ⁸¹ bhyo ||

de nas lus ni thams cad kyis || de bzhin du ni legs bzhugs⁸² la ||
de nas phyag rgya bcings brtan⁸³ te || gsang ba mchog 'di⁸⁴ brjod par bya || [10]

gal te gsang nyid⁸⁵ ma bsrungs⁸⁶ na || gang zhig sems can don zhugs⁸⁷ dang |
gang yang dkyil 'khor sgrub⁸⁸ byed pa || de rnams khyed⁸⁹ kyis bsad par 'gyur || [11]

chos dang ldan la⁹⁰ bdud rtsi nyid ||⁹¹ chos min pas ni dug pas lhag⁹² |
ci snyed⁹³ pa dang dus ci⁹⁴ bzhin || yul rnams nye bar bsten⁹⁵ pa dang ||
phyag rgya gar gyi⁹⁶ mchod⁹⁷ pa yis || ci bde bar ni rtag tu mchod || [12]

sring⁹⁸ mo bzhi'i⁹⁹ rgyud do || ||

1 - 2 (Ānandagarbha 著 *Śrīparamādyaṅkā*)

de ltar 'jig rten gsum 'byin pa'i rgyud gsungs nas | da ni de¹⁰⁰ nas zhes bya ba la sogs pa sring
mo bzhi¹⁰¹ 'byin pa'i rgyud gsungs pa yin no || de nas zhes bya ba'i sgra ni de ma thag¹⁰² pa ste
| dang po'i sbyor ba'i rjes thogs nyid la'o || 'dir dang po'i¹⁰³ sbyor ba'i ting nge 'dzin ni¹⁰⁴ ming
po gsum gyi dkyil 'khor las bshad pa nyid yin no ||

kun tu¹⁰⁵ chags dang zhe sdang rmongs || brtan¹⁰⁶ par byed pa'i rgyu¹⁰⁷ yin no || [2]

zhes bya ba ni ming po gsum gyi rnal 'byor ba rnams kyi¹⁰⁸ yang dag par sbyor ba'i sgom pas 'di
dag sgrub pa'o || de ltar kun tu¹⁰⁹ chags pa dang zhe sdang dang¹¹⁰ gti mug ste ming po gsum
gyi rang bzhin 'di rnams kyis brtan par byed pa'i rgyu yin no ||

dkyil 'khor zhes bya ba ni go bar zad¹¹¹ do ||

gal te gsang zhing ma bsrungs na || gang zhig sems can don zhugs dang ||
gang yang dkyil 'khor sgrub byed pa || de rnams khyed kyis gsang bar 'gyur || [11]

zhes bya ba ni dam tshig go¹¹² |

dkyil 'khor 'di'i bshad pa ni sngar bshad zin la 'dir khyad par ni 'di tsam du zad do || 'di lta ste
hrīḥ¹¹³ hūṃ shrīḥ¹¹⁴ bhyo zhes bya ba ni 'jug pa'i glu yin no ||

2 『理趣広経』 および注釈書の和訳

2 - 1 (『理趣広経』における **Caturbhaginītantra*)

続いて、教主にしてすべての衆生〔の〕主である持金剛は、〔以下のことを〕説示な
された。〔すなわち、〕三界〔主〕を出生する〔という〕目的¹¹⁵を成し遂げた後に、
さらに、〔四〕姉妹を出生なさせた。 [1]

貪・瞋・癡¹¹⁶が〔四姉妹を〕堅固にする原因である。〔四姉妹のうち、東方の〕喜び
と嫉妬〔の〕女 (*Rati)¹¹⁷は、よく知られた成就を与えるであろう。 [2]

ある〔成就〕¹¹⁸は、世間に普く説かれている。あらゆる集会で供養される女神たち、〔すなわち、南方の〕寂静と恐怖〔の〕女（*Māraṇī）、同様に、〔西方の〕金〔の身色を有する女〕¹¹⁹（*Vārāhī）、〔北方の〕成就と寂静〔の女〕（*Siddhikāśī）を説くとしよう。〔3〕

外〔教〕¹²⁰の衆生を利益するために、また、認識〔の〕対象を理解させるために、彼女たち（四姉妹）の心呪、マンダラ、そして、誓戒（samaya）¹²¹を説くとしよう。〔4〕

〔四姉妹の各々の心呪は、〕 hrīḥ hūṃ śrīḥ bhyo¹²²〔である〕。

聖なるマンダラは、四つの門〔を有する〕。三本の糸¹²³によってマンダラを造るべきである。〔門の〕¹²⁴分け目の線は、大きな柱〔を表している〕。四〔姉妹〕の次第¹²⁵と同様に〔マンダラを造るべきである〕¹²⁶。〔5〕

そ〔のマンダラ〕の中央に、〔内〕輪を四〔姉妹の次第〕¹²⁷と同様に造るべきである。〔四姉妹〕各自の四つの心呪（hrīḥ hūṃ śrīḥ bhyo）を、各自の門〔の方向〕に向けて配置すべきである。〔6〕

〔東方の〕幸運〔な女〕（*Rati）は、手に〔弓矢という〕¹²⁸自身の武器〔を持つ〕。〔四姉妹〔のうち〕盾を持つ〔のは、南方の〕寂静の女（*Māraṇī）〔である〕。〔西方の〕*Vārāhīは、手に宝だけ¹²⁹〔を持つ〕。〔北方の〕成就の女（*Siddhikāśī）は、〔金剛〕慢〔の仕種〕¹³⁰を伴う。〔7〕

続いて、〔阿闍梨はマンダラの〕¹³¹第一の輪に、〔四姉妹の次第と〕¹³²まったく同様に入ってから、〔四〕姉妹各自の増益〔の修法〕を、諸々の次第の通りに〔行うべきである〕。〔8〕

〔マンダラに〕入ってから、同様に儀軌の通りに、香などを用いて〔四姉妹を〕供養すべきである。秘密の真実をよく達成することによって、あらゆるところで鉤召〔と〕浄化〔の修法〕をなすべきである。〔9〕

oṃ sumbha gara tiṣṭha mā yāhi bhūr | rakṣa samātiṣṭha mā yāhi bhūr bhuvah | varāhā samīryāt mā yāhi svah | siddhike siddhisa mā yāhi | imāṃ ke mudrābhiḥ | hrīḥ hūṃ śrīḥ bhyo ||

（オーン、スンバ〔を殺す者〕よ、汝は飲むな、汝は立つな、汝は行くな、地下よ¹³³。守護者よ、汝は頼るな、汝は行くな、地下よ、地上よ。牝猪よ、結合されるべきものから汝は行くな、空よ。魔力を有する〔女〕よ、魔力を獲得する〔者〕よ、汝は行くな。これを如何なる者たちが諸々の印契によって〔成就するのか〕。フリーヒ、フーン、シュリーヒ、ブヨー）¹³⁴

続いて、全身で〔四姉妹の次第と〕¹³⁵ 同様に〔マンダラに〕正しく住してから、更に、印契〔の〕結びを堅固にして、以上の最高の秘密（マントラ）¹³⁶ を唱えるべきである。
[10]

もし秘密自体を守らないならば、衆生利益に向かいマンダラを成就する者たち¹³⁷ は、あなたによって殺害されるであろう。 [11]

法を備えた者にとっては〔四姉妹の次第は〕¹³⁸ まさに甘露〔であるが〕、法がないことで毒が出る。あるだけの〔供物〕¹³⁹ と、時節の通りに諸方〔の四姉妹〕に親近することと、印契〔と〕、舞踊という供養によって、欲するままに¹⁴⁰ 歓喜のために〔四姉妹を〕常に供養すべきである。 [12]

〔以上、〕「四姉妹のタントラ」。

2- 2 (Ānandagarbha 著 *Śrīparamādyāṭkā*)

以上のように、「三界〔主〕を出生するタントラ」(*'Jig rten gsum 'byin pa'i rgyud*) が説かれてから、今〔ここで〕、「de nas」云々と「四姉妹」を出生する「タントラ」が説かれたのである。「続いて」という語は直ちに〔という意味〕であって、第一のヨーガの「主」によって獲得されるもの自体に対して〔説かれた〕。ここで第一のヨーガの三摩地 (*samādhi*) というのは、三兄弟のマンダラにおいてまさに説かれたものである¹⁴¹。

「貪・瞋・癡が」〔四姉妹を〕「堅固にする原因である」。 [2]

というのは、三兄弟の行者たちのヨーガの修習によって、これら〔四姉妹を堅固にすること〕を成し遂げる。以上のように、「貪」・「瞋」・「癡、〔すなわち、〕これら三兄弟の自性が、〔四姉妹を〕「堅固にする原因である」。

〔四姉妹の〕「マンダラ」というものは、理解されつくしている¹⁴²。

「もし秘密」にしつつ¹⁴³ 「守らないならば、衆生利益に向かいマンダラを成就する者たちは、あなたによって」隠されるであろう¹⁴⁴。 [11]

という〔偈頌〕は、誓戒 (samaya) である。

このマンダラの解説は、以前に説き終わっているために、ここにおける特異点としては、以下〔に述べるもの〕だけで尽きた。すなわち、「フリーヒ、フーン、シュリーヒ、ブヨー」(hrīḥ hūṃ śrīḥ bhyo) というのが、〔四姉妹をマンダラに〕¹⁴⁵ 引入する歌である。

略号表

- ac* ante correctionem (訂正前の写本の読み)
- add. added in (当該の写本・版本で、対応箇所が書き加えられている)
- C Co ne Edition of the Tibetan Tripiṭaka (チョネ版チベット大蔵経)
- conj. conjecture (筆者が提案する読み)
- D sDe dge Edition of the Tibetan Tripiṭaka (デルゲ版チベット大蔵経)
- G Golden Manuscript of the Tibetan bsTan 'gyur (金写本チベット大蔵経論疏部)
- H lHa sa Edition of the Tibetan bKa' 'gyur (ラサ版チベット大蔵経仏説部)
- J 'Jang sa tham/Li thang Edition of the Tibetan bKa' 'gyur (ジャンサタム／リタン版チベット大蔵経仏説部)
- L London/Shel dkar Manuscript of the Tibetan bKa' 'gyur (ロンドン／シェルカル写本チベット大蔵経仏説部)
- N sNar thang Edition of the Tibetan Tripiṭaka (ナルタン版チベット大蔵経)
- om. omitted in (当該の写本・版本が、対応箇所を欠いている)
- P Peking Edition of the Tibetan Tripiṭaka (北京版チベット大蔵経)
- pc* post correctionem (訂正後の写本の読み)
- Ph Phug brag Manuscript of the Tibetan bKa' 'gyur (プダク写本チベット大蔵経仏説部)
- r recto (写本・版本の表面)
- S sTog Palace Manuscript of the Tibetan bKa' 'gyur (トクパレス写本チベット大蔵経仏説部)
- T Tokyo/rGyal rtse Manuscript of the Tibetan bKa' 'gyur (東京写本チベット大蔵経仏説部／東洋文庫所蔵河コレクション)
- U Urga Edition of the Tibetan bKa' 'gyur (ウルガ版チベット大蔵経仏説部)
- v verso (写本・版本の裏面)
- Y g-Yung lo Edition of the Tibetan bKa' 'gyur (永楽版チベット大蔵経仏説部)

参考文献

木村俊彦

[1990] 「ダルマキールティのマントラ論」『印度学仏教学研究』39 (1): 415 (91)–411 (95).

佐藤直実

[2008] 『藏漢訳『阿闍世国経』研究』, 山喜房佛書林.

田中公明

[2010] 『インドにおける曼荼羅の成立と発展』, 春秋社.

梶尾祥雲

[1982] 『理趣経の研究』, 臨川書店. [originally published in 1930]

徳重弘志

[2013] 「『理趣広経』における灌頂について」『印度学仏教学研究』61 (2): 964 (95)–960 (99).

[2015] 「『理趣広経』「真言分」のブダク写本について — 資料編 —」『高野山大学密教文化研究所紀要』28: 62 (147)–44 (165).

長島尚道

[1975] 「大正大学所蔵チベット大蔵経・ナルタン版甘殊爾目録」『大正大学研究紀要』61: 1 (760)–35 (726).

生井智紹

[1993] 「Dharmakīrti: *Svavṛtti ad Pramāṇavārttika* I 308 — Dharmakīrti の言及する密教儀礼について —」『密教学研究』25: 1–27.

福田亮成

[1987] 『理趣経の研究 — その成立と展開 —』, 国書刊行会.

堀内寛仁 [ed.]

[1974] 『梵藏漢対照 初会金剛頂経の研究: 梵本校訂篇』下, 密教文化研究所.

[1983] 『梵藏漢対照 初会金剛頂経の研究: 梵本校訂篇』上, 密教文化研究所.

密教聖典研究会

[2018] 「*Śrīparamādyā* 校訂テキスト — 第12章・第13章・第14章 —」『大正大学総合佛教研究所年報』40: 123–143.

渡辺章悟

[1995] 『大般若と理趣分のすべて』, 北辰堂.

Davidson, Ronald M.

[1981] “The Litany of Names of Mañjuśrī: Text and Translation of the *Mañjuśrīnāmasaṃgīti*.” In *Tantric and Taoist Studies in Honour of R. A. Stein*, Vol. 1, ed. M. Strickmann, 1–69. Bruxelles: Institut belge des hautes études chinoises.

Hackett, Paul G.

[2012] *A Catalogue of the Comparative Kangyur (bka' 'gyur dpe bsdur ma)*. New York: American Institute of Buddhist Studies.

Sanderson, Alexis

[2001] “History through Textual Criticism in the study of Śaivism, the Pañcarātra and the Buddhist Yoginītantras.” In *Les Sources et le temps: Sources and Time*, ed. F. Grimal, 1–47. Pondicherry: Institut français de Pondichéry/École française d’Extrême-Orient.

Sāmkṛtyāyana, Rāhula [ed.]

[1982] *Kaṛṇakagomin’s Commentary on the Pramāṇavārttikavṛtti of Dharmakīrti*. Kyoto: Rinsen Book Co. [originally published in 1943]

- 1 訳出年代に関しては、Rin chen bzang po (958–1055) の生没年から判断した。
- 2 Shi ba ’od は、西チベット王である Byang chub ’od (11 世紀前半) の出家した兄弟であるため、本経典の訳出年代は 11 世紀前半頃である。これについては、田中 [2010: 175] を参照。
- 3 福田 [1987: 83–104] を参照。
- 4 徳重 [2015] における通番に従えば、「般若分」(ŚP I) では「I-12」に、「真言分・大楽金剛秘密」(ŚP II) では「II-7」に、「真言分・吉祥最勝本初」(ŚP III) では「III-13」に、四姉妹に関する記述が存在する。
- 5 当該箇所に関しては、漢訳が欠落している。
- 6 *Pramāṇavārttikaṭīkā* (Sāmkṛtyāyana 1982: 578 ll. 7–9) :
 ḍākinībhaginītantrāḍiṣu darśanāt | ḍākinītantrē **caturbhaginītantrē**, āḍiśabdāc cauryahetuṣu kambukinītantrāḍiṣu darśanāt |
 なお、Sanderson [2001: 12 n. 10] には、当該箇所の英訳が存在する。また、Sanderson 氏に従って、当該の引用文における āḍiśabdāt を āḍiśabdāc に修正した。
- 7 *Pramāṇavārttikaṭīkā* にはチベット語訳が存在しないため、同文献中の *Caturbhaginītantra* という語句と対応するチベット語は、厳密に言えば不明である。ただし、Dharmakīrti 著 *Pramāṇavārttikasvavṛtti* のチベット語訳 (D no. 4216, ce 357r4) に従えば、*Bhaginītantra* と対応するチベット語は *Sring mo ’i rgyud* である。このことから本稿では、*Caturbhaginītantra* と対応するチベット語として、*Sring mo bzhi ’i rgyud* という語句を想定している。
- 8 *Pramāṇavārttikaṭīkā* における *Caturbhaginītantra* という語句に関しては、木村 [1990]、生井 [1993]、Sanderson [2001] が検討を行っている。また、この Kaṛṇakagomin が言及する経典と ŚP III における当該の一節とが対応すると判断した根拠については、『印度学仏教学研究』70 に掲載予定の拙稿 (「Kaṛṇakagomin が言及する *Caturbhaginītantra* について」) を参照されたい。
- 9 チベット大蔵経諸版における *Sring mo bzhi ’i rgyud* (**Caturbhaginītantra*) の所在は、以下の通りである。C no. 123, ta 247r4–v7; D no. 488, ta 221v1–222r2; H no. 454, ja 216r2–v6; J no. 460, ta 235r2–v4; L no. 353, nya 86v7–87r8; N no. 439, nya 398v2–399r6; P no. 120, ta 230v1–231r2; Ph no. 477, tha 204v4–205v1; S no. 447, nya 105v7–106v3; T no. 441 (2), nya 86r6–v7; U no. 487, ta 221v1–222r2。また、Y については版本を直接確認することができなかつたので、中国蔵学研究中心編纂の『中華大蔵経 甘珠爾』第 85 卷所収の当該箇所 (pp. 634 l. 13–635 l. 18) に対する注記 (pp. 773–774) から Y の読み方を引用した。なお、『中華大蔵経 甘珠爾』では、D とは異なる読みだけを注記するという編集方針が採られているため、本稿では『中華大蔵経 甘珠爾』に明示されている Y の読みだけを後注に記載した。さらに、D の刊本には数種あるが、本稿では原則として、*The Tibetan Tripitaka: Taipei Edition* (Taipei: SMC Publishing Inc., 1991) を用いた。また、N の通番に関しては、長島 [1975: 13 (748)] (no. 438) と Hackett [2012: 137] (no. 439) とで異なっているため、本稿では後者を採用した。なお、チベット大蔵経諸版の概要や年代に関しては、佐藤 [2008: 71–92] および渡辺 [1995: (1)–(12)] を参照。
- 10 チベット大蔵経諸版における ŚPT の当該箇所の所在は、以下の通りである。C, i 5r4–v1; D no. 2512, i 5r4–v1; G no. 1339, li 6v6–7r4; N no. 1333, li 6r7–v4; P no. 3335, li 5v3–8.
- 11 *ston pa*] C D H J L N P S T U; *stong pa* Ph
- 12 *can*] C D H J L N P S T U; om. Ph

- 13 *rje*] C D H J L N P S T U; *rjes su* Ph
14 *phyung don grub tu*] C D H J L N S T U; *phyung don grub du* P; *byung grub don du* Ph
15 *sring*] C D H J L N P Ph T U; *srin* S
16 *tu*] C D H J L N P S T U; *du* Ph
17 *phrag*] C D H J P S T U; *phra* L N Ph
18 *tu*] C D H J L N P S T U; *du* Ph
19 *ngos grub ster*] C D J P U; *grub kun ster* H L N S T; *grub kun gter* Ph
20 *tu*] C D H J L N P S T U; *du* Ph
21 *tshogs*] C D H J L N P S T U; *sna tshogs* Ph
22 *gyis*] C D H J L N P S T U; *om.* Ph
23 *zhi dang 'jigs ma de bzhin gser* ||] D J L N P S T U; *zhi dang 'jigs ma de bzhin gsor* || C; *zhi dang 'jigs ma de bzhin gsar* || H; *om.* Ph
24 *ni*] C D H J N P Ph S T U; *na* L
25 *bya 'i*] C D H J L N P S T U; *pa 'i* Ph
26 *kyi*] D H L N P S T U; *kyis* C J Ph
27 *'khor*] C D H J L N Ph S T U; *'lor* P
28 *hrīḥ hūṃ shrīḥ bhyo*] conj.; *hi hūṃ shī shya* C J S T; *hrī hūṃ shrī bhyo* D H U; *hi hūṃ shrī shya* L N P Y; *hrī hūṃ shrī shya* Ph
29 *dkyil*] C D H L N P Ph S T U; *dkyi* J
30 *bzang po sgo bzhi pa*] C D H J P U; *chen po bzhi pa ni* L N S T; *bzang pa gru bzhi pa* Ph
31 *gyis*] C D H J P Ph U; *gyi* L N S T
32 *mtshams*] C D H J L N S T U; *'tshams* P Ph Y
33 *ni*] C D H J L N P S T U; *dang* Ph
34 *che*] C D H J L N P S T; *ste* Ph; *cha* U
35 *gi*] H L N S T; *ni* C D J P Ph U
36 *rim*] C D H J L N P Ph S T U; *rin* Y
37 *de yi*] C D H J L N P S T U; *de 'i* Ph
38 *ni*] C D H J P Ph U; *gi* L N S T
39 *ni*] C D H J L N P S T U; *yis* Ph
40 *par gzhag*] C D H J P U; *po bzhag* L; *pa bzhag* N T; *par bzhag* Ph; *pa gzhag* S
41 *skal*] D H J L N P S T U; *bskal* C Ph
42 *bzang lag*] C D H J L N P S T U; *bzangs gal* Ph
43 *rang gi*] L N Ph S T; *ral gri* C D H J P U
44 *sring*] C D H J L N P S T U; *srin* Ph
45 *phub*] C D H J N P S T U; *phrab* L; *bu* Ph
46 *mo*] C D H J P U; *ma* L N S T; *'am* Ph
47 *mo*] C D H J L N P S T U; *mo 'i* Ph
48 *pa*] C D H J P Ph S T U; *om.* L N
49 *bsnyems*] D H Ph S T U; *snyems* C J L N P Y
50 *po 'i*] C D H J L N P S T U; *po* Ph
51 *kun nas*] C D H J L N P S T U; *de kun* Ph
52 *zhugs*] C D H J P Ph U; *bzhugs* L N S T
53 *sring*] C D H J L N P S T U; *srin* Ph
54 *kyi*] C D H J P Ph U; *kyis* L N S T
55 *rim*] C J P Y; *rims* D H L N Ph S T U
56 *ji*] D Ph S U; *ci* C H J L N P T
57 *cho*] C D H J L N P Ph S T^{ac} U; *cha cho* T^{ac}
58 *bzhin*] C D H J P Ph U; *bya* L N S T
59 *spos*] C D H J L P Ph S T U; *spros* N
60 *mchod par*] D H L N Ph S T U; *mchod pa* C J P; *mnod pa* Y
61 *bsgrub*] C D H J P S; *sgrub* L N T U; *bsgrubs* Ph

- 62 *dgug*] C D H J L N P S T U; *bkug* Ph
63 *sum*] C D J P U; *suṃ* H L N S T; *su* Ph
64 *gara*] C P; *ga ra* D H J L N S T U; *ge ra* Ph
65 *tiṣṭha*] C D J N P S T U; *ti ṣṭha* H L; *ti sta* Ph
66 *mā yā*] conj.; *ma ya* C D H J L N S T U; *maya* P; *ma ma* Ph
67 *hi bhūr*] C D J; *hī bhūr* H; *hī bhu* L N S T; *hī bu* P Y; *hi bhu* Ph; *hi bhū ra* U
68 *sa mā*] C D H J L N S T U; *sa ma* P Y; *si ma* Ph
69 *tiṣṭha*] C D H N P S T U; *ti ṣṭha* J; *ti ṣṭha* L; *ri sta* Ph
70 *mā yā*] conj.; *ma ya* C D H J L N P Ph S T U
71 *hi bhūr bhu*] D J U; *hi bhūr bu* C; *hi bhur bhu* H; *hī bhur bhu* L N S; *hī bhur* P Y; *bhu bhu* Ph; *hī bhūr bhu* T
72 *bah*] L N T; *ba* C D H J P Ph S U
73 *ba rā hā sa mī ryā ta*] conj.; *ba ra hā a mi ryā ta* C; *ba rā hā a mi ryā ta* D U; *ba ra hā a miryā ta* H; *ba ra hā a miryā ta* J; *ba ra hā a miryā tā* L N S T; *bha ra ha a miryā ta* P Y; *para hi a bhyi dha sa* Ph
74 *mā yā hi*] conj.; *ma ya* C D H J L N P S T U; *ma ya hi* Ph
75 *swaḥ*] conj.; *swāhā* C D H J N S T U; *swā hā* L P; *swa* Ph
76 *siddhi ke*] H L N S T; *sed dhe ke* C; *sid dhi ke* D U; *sid dhe ke* J; *sid dha ka* P Y; *sidhe ke* Ph
77 *siddhi sa*] H L N S T; *sid dhi sa* C D J P U; *sid dha swa* Ph
78 *mā yā*] conj.; *ma ya* C D H J L N P Ph S T U
79 *i mām ke mu drā bhiḥ*] conj.; *ī maṃ ki mu drā bhiḥ* C J; *ī mām ke mu drā bhiḥ* D U; *ī maṃ ke mū drā bhiḥ* H; *ī mā mbi mu drā bhi* L N; *ī mā bhi mu trā bhi* P Y; *i ma bha mu ha bhid* Ph; *ī mamki mu drā bhiḥ* S; *ī māmki mu drā bhiḥ* T
80 *hrīḥ*] C D H J S U; *hrī* L N P Y; *hri* Ph; *hriḥ* T
81 *hūṃ shrīḥ*] conj.; *hūṃ shrī* C D H J L N P S T U; *bhruṃ* Ph
82 *bzhugs*] C D H J L N P S T U; *zhugs* Ph
83 *brtan*] L N S T; *bstan* C D H J P Ph U
84 *ba mchog 'di*] C D H J L N P S T U; *ba 'i mchod pa* Ph
85 *nyid*] C D H J L N P S T U; *'di* Ph
86 *bsrungs*] C D H J L N P T U; *bsgrubs* Ph; *gsungs* S
87 *zhugs*] C D H J P Ph U; *bzhugs* L N S T
88 *sgrub*] C D H J L N P S T U; *bsgrub* Ph
89 *khyed*] C D H J L N P Ph S U; *khyen* T
90 *la*] D H L N S T U; *pa* C J P Y; *na* Ph
91 *de rnam khyed kyis bsad par 'gyur* || *chos dang ldan la bdud rtsi nyid* || add. C J P Y
92 *lhag*] C D J L P Ph S T U; *lhags* H N
93 *ci snyed*] C D H J L N P T U; *ji snyed* Ph; *ci rnyed* S
94 *ci*] C D H J L N P T U; *ji* Ph S
95 *bsten*] C D H J L N P S T U; *bstan* Ph
96 *gyi*] C D H J N P Ph T U; *gyis* S
97 *mchod*] C D H J P Ph U; *bshad* L N S T
98 *sring*] C D H J L N P S T U; *srin* Ph
99 *bzhi'i*] C D H J L N P S T U; *bzhi yi* Ph
100 *de*] C D N P; *da* G
101 *pa'i* add. G N P
102 *thag*] C D P; *thags* G N
103 *po'i*] C D; *po* G N P
104 *ni*] G N P; om. C D
105 *tu*] C G N P; *du* D
106 *brtan*] C D; *bstan* G N P
107 *rgyu*] C D; *rgyud* G N P
108 *kyi* G N P; *kyis* C D
109 *tu*] G N P; *du* C D

110 *dang*] C D; om. G N P

111 *zad*] D G N P; *byed* C

112 *go*] C D; *gi* G N P

113 *hrīḥ*] conj.; *hri* C D G N P

114 *shrīḥ*] conj.; *shrī* C D G N P

115 本稿で扱う箇所直前には、'*Jig rten gsum 'byin pa'i rgyud* (三界〔主〕を出生するタントラ) という一節が存在している。ŚPT の記述 (*de ltar 'jig rten gsum 'byin pa'i rgyud gsungs nas*) を根拠として、ここでの「三界〔主〕を出生する〔という〕目的」とは、その一節を意図していると判断した。

116 ŚPT に従えば、ここでの「貪・瞋・癡」とは、三界主である三兄弟 (ブラフマン・シヴァ・ヴィシュヌ) の自性のことである。

117 ŚP III における当該箇所に関しては、サンスクリット写本が現存しておらず、漢訳も欠落しており、その上、ŚPT でも注釈が省略されている。そのため、ŚP III のチベット語訳のみでは四姉妹のサンスクリット名や方位を知ることはできない。ただし、ŚP I に属する「外金剛部の儀軌」における四姉妹のマンダラや儀礼 (D no. 487, *ta* 172r3-v2; P no. 119, *ta* 177r5-v3) には漢訳が存在し、以下のように四姉妹のサンスクリット名が音写されている。

ŚP I [Tib.] (D no. 487, *ta* 172r5-6; P no. 119, *ta* 177r6-v8; 密教聖典研究会 2018: 136):

'*di lta ste dga' ba mo ni shar du lta ba | mda' dang gzhu thogs pa la brtson pa | sgeg mo mdog dmar ba'o*
|| **gsod ma** lho phyogs su lta ba lag na ral gri dang phub thogs pa mdog nag po'o || **phag mo** nub tu lta ba
lag na gser gyi gter thogs pa | gser gyi mdog can no || **grub pa mo** zhi ba mo zhes bya ba byang du lta ba |
lag na gri dang sha ka ra thogs pa mdog dkar mo'o ||

ŚP I [Chi.] (大正 no. 244, 8: 797a19-22):

東位囉帝其身紅色手持弓箭。南位摩囉尼其身黑色手持利劍及契吒哥。西位嚩囉呬其身金色手持寶藏。北位悉提迦尸其身白色手持撈沙迦及刀。

以上の記述から、梅尾 [1982: 352, 357] が指摘しているように、四姉妹の名称を還梵することができる。すなわち、東が **Rati* (囉帝, *dGa' ba mo*)、南が **Māraṇī* (摩囉尼, *gSod ma*)、西が **Vārāhī* (嚩囉呬, *Phag mo*)、北が **Siddhikāśī* (悉提迦尸, *Grub pa mo*) である。

118 ここでは直前の文章を根拠として語句を補った。

119 注 (117) で提示した ŚP I の記述 (*gser gyi mdog can*; 其身金色) に基づいて語句を補った。

120 ここでの *phyi rol sems can* が何を意図しているのかは不明瞭であるが、「外〔教〕の衆生」を指していると推定した。

121 ŚPT に従えば、この「誓戒」の具体的な内容が、第 [11] 偈である。

122 ŚP と同一の經典群に属する『真実撰経』(*Sarvatathāgatattvasaṃgraha*. 以下 STTS) にも、*hrīḥ* (STTS § 1676)、*śrīḥ* (STTS § 1676)、*bhyo* (STTS § 1384) という語句が用いられている。このことを根拠として、ŚP のテキストを部分的に修正した。

123 ここでは、「三本の糸」(*srad bu gsum*) によってマンダラを墨打ちすることを意図していると判断した。なお、ŚP I における四姉妹のマンダラの箇所では、以下のように「四本の線」(*thig bzhi*) という語句が用いられている。

ŚP I [Tib.] (D no. 487, *ta* 172r4; P no. 119, *ta* 177r5-6; 密教聖典研究会 2018: 136)

de nas 'di'i dkyil 'khor bshad par bya ste | dkyil 'khor kun nas zlum por thig btab la | thig bzhi la 'khor lo
bzhi pa byas la dkyil 'khor de rnam su sgo bzhi blta ba'i lha mo bzhi'i gzugs brnyan bzhas par bya ste |

124 ここでは前後の文脈を根拠として語句を補った。

125 ここでの「四〔姉妹〕の次第」(*bzhi po dag gi rim pa*) が何を意図しているのかは不明瞭であるが、ŚP I や ŚP II のことか、あるいは、ヒンドゥー教の文献を指していると推測することができる。

126 ここでは直前の文章を根拠として語句を補った。

127 ここでは直前の文章を根拠として語句を補った。

128 注 (117) で提示した ŚP I の記述 (*mda' dang gzhu thogs pa la brtson pa*; 手持弓箭) に基づいて語句を補った。

129 「手に宝だけ」(*lag na gter nyid*) という記述は、他の女神の持物が二種類ずつであることを意図していると判断した。具体的には、注 (117) で提示した ŚP I の記述に従えば、**Rati* は「矢と弓」(*mda' dang gzhu*) を、**Māraṇī* は「剣と盾」(*ral gri dang phub*) を、**Vārāhī* は「黄金の宝」(*gser gyi gter*) を、**Siddhikāśī* は「刀と頭蓋骨」(*gri dang sha ka ra*) を、それぞれ持物としている。

- 130 ŚP III では「[金剛] 慢 [の仕種]」(bsnyems) と記されているが、ŚP I では注 (117) で提示したように「刀と頭蓋骨」(gri dang sha ka ra) を持つとされている。そのため ŚP III では、金剛慢の仕種で腰に手をあてつつ、両手に刀と頭蓋骨を持つという尊容が意図されていると判断した。
- 131 ここでは前後の文脈を根拠として語句を補った。
- 132 「まったく同様に入ってから」(kun nas de bzhin zhugs nas) という語句が、何と同様であることを意図しているのかは不明瞭であるが、ここでは「四姉妹の次第と」という語句を補った。その根拠としては、当該箇所直後の「諸々の次第の通りに」(go rim dag ni ji bzhin du) という一文や、第 [5] 偈に「四 [姉妹] の次第と同様に」(bzhi po dag gi rim pa bzhin) という文言が存在することが挙げられる。
- 133 当該のマントラにおける「地下よ」(bhūr)、「地上よ」(bhuvah)、「空よ」(svah) というヴェーダ以来の呪句は、ŚP では「名灌頂」や「授記」のマントラにも組み込まれている。詳細については、徳重 [2013: 962 (97)] を参照されたい。
- 134 当該のマントラにおける「スンバ [を殺す者] よ」(sumbha)、「守護者よ」(rakṣa)、「牝猪よ」(varāhā)、「魔力を有する [女] よ」(siddhike) という語句は、四姉妹 (*Rati, *Māraṇī, *Vārāhī, *Siddhikāśī) と対応している。
- 135 何と同様であることを意図しているのかは不明瞭であるが、注 (132) と同様に、ここでも「四姉妹の次第と」という語句を補った。
- 136 ここでの「最高の秘密」(gsang ba mchog) とは、「brjod par bya」(唱えるべきである) という語句とともに用いられていることから、直前の「マントラ」のことを指していると判断した。
- 137 ここでの「衆生利益に向かいマンダラを成就する者たち」とは、「弟子」のことを意図していると判断した。
- 138 ここでは前後の文脈を根拠として語句を補った。
- 139 ここでは前後の文脈を根拠として語句を補った。
- 140 ŚP III の第 [12] 偈に関しては、ŚP II における四姉妹のマンダラや儀礼の箇所平行句が存在する。ŚP II [Tib.] (D no. 488, ta 185v5-6; P no. 120, ta 192r3-4):
 chos kyis 'jig rten bde ba dang || chos min pas ni sdug bsngal ster || phyag rgya gar gyi (gyi] D; gyis P) mchod pa yis || **ci 'dod par** ni mchod par bya || ci snyed pa dang ci 'dod bzhin || yul rnam la ni brten (brten] D; bstan P) par bya ||
 このことを根拠として、ŚP III の第 12 偈 F 句 (ci bde bar ni rtag tu mchod ||) における ci が、ci 'dod par の省略形であると判断した上で、「欲するままに」と翻訳した。
- 141 ŚPT における ŚP I に対する注釈箇所でも、三兄弟のマンダラ儀礼における「第一のヨーガの三摩地」(dang po'i sbyor ba'i ting nge 'dzin) について以下のように言及されている。ŚPT (D no. 2512, si 236v6-237r2; P no. 3335, yi 291r1-5):
 de ltar ming po gsum gyi rtog pa des 'dul ba'i sems can rnam las brtsams te gsungs nas | da ni sring mo bzhis 'dul ba'i sems can nyid las (las] D; la P) brtsams te | sring mo bzhis'rtog pa bshad pa'i phyir | de nas zhes bya ba la sogs pa gsungs so || 'dir **dang po'i** (po'i] P; po D) **sbyor ba'i ting nge 'dzin** ni ming po gsum gyi dkyil 'khor du gsungs pa nyid gzung bar bya'o || da ni de nas zhes bya ba la sogs pa gnyis pa gsungs pa yin la | de nas zhes bya ba'i sgra ni de ma thag pa ste | dang po'i sbyor ba'i rjes thogs nyid la zhes bya ba'i don to || sring mo bzhis zhes bya ba nas ham zhes bya ba'i bar gyi bshad pa ni go bar zad do || 'di dag gis ni **ting nge 'dzin gnyis pa** bshad pa yin no || de nas 'dus pa nas brtsams te | gsum pa yin par shes par bya'o ||
 なお、以上の ŚP I に対する注釈箇所では、四姉妹のマンダラ儀礼における「第二の [ヨーガの] 三摩地」(ting nge 'dzin gnyis pa) についても言及されているが、ŚP III に対する注釈箇所では省略されている。
- 142 先述したように、四姉妹に関するマンダラや儀礼は、ŚP I、ŚP II、ŚP III にそれぞれ記載されている。ŚPT ではこの直後に「このマンダラの解説は、以前に説き終わっているために、ここにおける特異点としては、以下 [に述べるもの] だけで尽きた」(dkyil 'khor 'di'i bshad pa ni sngar bshad zin la 'dir khyad par ni 'di tsam du zad do) と記されていることから、ŚP III における「四姉妹のマンダラ」が、ŚP I や ŚP II におけるマンダラとほぼ同一だということが理解できる。
- 143 ŚPT では「もし秘密にしつつ」(gal te gsang zhing) とあるが、現行の ŚP の本文では「もし秘密自体を」(gal te gsang nyid) と記されている。

¹⁴⁴ ŚPT では「隠されるであろう」(gsang bar 'gyur) とあるが、現行の ŚP の本文では「殺害されるであろう」(bsad par 'gyur) と記されている。

¹⁴⁵ ここでは前後の文脈を根拠として語句を補った。

〈キーワード〉 *Karṇakagomin, Pramāṇavārttikaṭīkā, Śrīparamādya, Caturbhaginītantra*